

## 令和6年度 新潟よつば学園学校評価<まとめ>

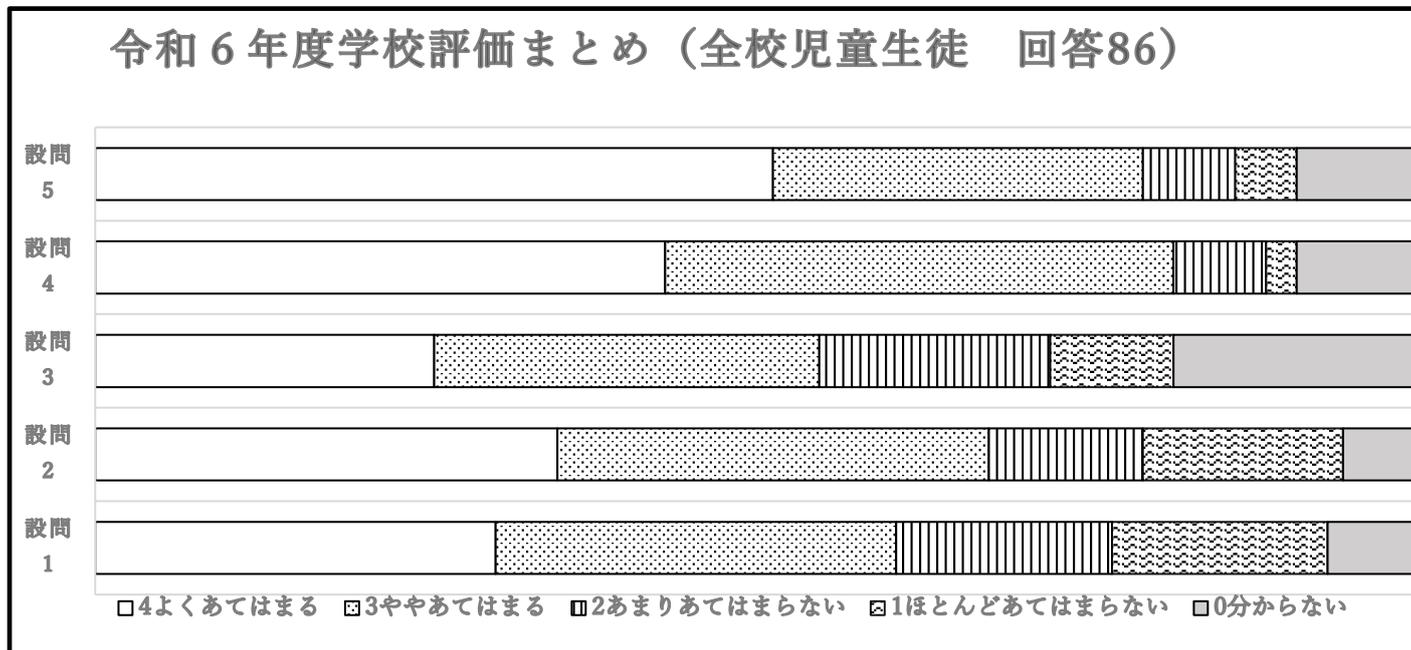
### 1 学校評価の結果

学校評価の結果がまとまりましたのでお知らせいたします。

「4よくあてはまる 3ややあてはまる 2あまりあてはまらない 1ほとんどあてはまらない 0わからない」の回答の中から、4と3を肯定的な評価として数値化しました。今年度は、昨年度の反省から設問内容を見直しました。なお、このアンケート結果は学校ホームページでもご覧になれます。

児童生徒アンケート	
※ ( ) は肯定的評価の割合	
令和6年度	令和5年度
<b>設問1 &lt;インクルーシブ教育&gt;</b>	
他の教育部門の友達と一緒に学習したり、活動したりすることがありましたか。(60%)	他の教育部門の人と一緒に活動がありましたか。(86%)
<b>設問2 &lt;相手と積極的に関わろうとする態度の育成&gt;</b>	
違う学年や教育部門の人とも自分からあいさつや会話などをしていますか。(67%)	言葉や手話、点字などを使って他の人と自分からあいさつをしたり、学習したり、遊んだりしたことがありますか。(70%)
<b>設問3 &lt;複数障害種学校としての価値の発信&gt;</b>	
地域に出掛けて学習したり、他の学校と交流したりして、新潟よつば学園のことを知ってもらうことができましたか。(55%)	新潟よつば学園のことが、学校以外に伝わっていると感じますか。(48%)
<b>設問4 &lt;個性及び障害特性に応じた教育&gt;</b>	
学校の授業はあなたにとって分かりやすいですか。(81%)	あなたの苦手なことや障害に対して、学習しやすいように工夫がされていると感じますか。(86%)
<b>設問5 &lt;長期的な視点からの系統立った指導&gt;</b>	
将来の自分のために必要な勉強をしていると思いますか。(79%)	将来の自分のために必要な勉強をしていると思いますか。(90%)

### 令和6年度学校評価まとめ (全校児童生徒 回答86)

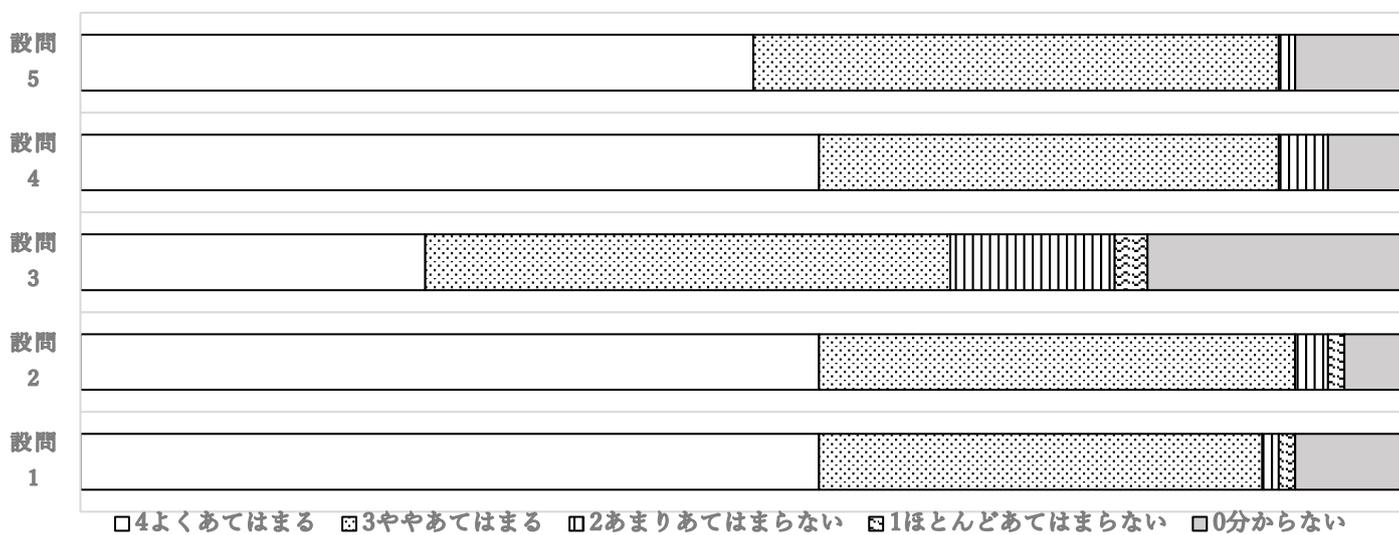


保護者アンケート

※ ( ) は肯定的評価の割合

令和6年度		令和5年度	
<b>設問1 &lt;インクルーシブ教育&gt;</b>			
学校は、学部や部門を越えて共に学ぶ機会を作り、仲間を大切にしている取組をしていますか。(89%)		学校は、教育部門間の幼児児童生徒の交流のための取組をしていますか。(75%)	
<b>設問2 &lt;相手と積極的に関わろうとする態度の育成&gt;</b>			
学校は、互いを尊重し、積極的に関わろうとする態度を育成していると感じますか。(91%)		学校は、相手のコミュニケーション手段を尊重し、積極的に関わろうとする態度の育成のための取組をしていますか。(82%)	
<b>設問3 &lt;複数障害種学校としての価値の発信&gt;</b>			
学校は、新潟よつば学園の良さを発信するために、ホームページを活用したり、地域で学ぶ機会や他校との交流を適切に設定したりしていますか。(65%)		学校は、異なる障害種の幼児児童生徒が学ぶ学校として、その意義や素晴らしさを伝える取組をしていますか。(76%)	
<b>設問4 &lt;個性及び障害特性に応じた教育&gt;</b>			
学校は、幼児児童生徒の個性や障害特性を踏まえて、一人一人に合った指導や支援を提供していますか。(90%)		学校は、幼児児童生徒の個性や障害特性を踏まえて教科等、歩行、点字、日本語、手話、社会参加について適切な取組をしていますか。(85%)	
<b>設問5 &lt;長期的な視点からの系統立った指導&gt;</b>			
学校は、幼児児童生徒の将来の自立や社会参加を見据えた視点から教育に取り組んでいますか。(90%)		学校は、長期的な視点から系統立った教育をしていますか。(77%)	

令和6年度学校評価まとめ (全校保護者 回答数81)



## 2 まとめ

○児童生徒アンケートでは、昨年度と比べ、肯定的な割合が全体的に低下しました。その要因として、設問内容が新しくなったことにより、どのような学習や活動を評価できるのかの説明が不十分であったことが推測されます。次年度は、事前説明を丁寧に行うとともに、必要に応じて回答を学校で行うなどの工夫をします。

### ○設問1<インクルーシブ教育>、設問2<相手と積極的に関わろうとする態度の育成>

学部・部門を越え、共に学ぶ取組が高い評価をいただきました。

保護者自由記述より：「障害種に関わりなく一緒に学べる機会がある」「子どもだけでなく、保護者にとっても学びになる」という声をいただきました。

児童生徒アンケートより：「友達が増えた」「いろいろな人と仲良くできる、勉強できる」という声の一方で、どのように関わったらよいのか迷っている実態がうかがえました。他学部、他部門の児童生徒との関わり方を、職員が手本となり日常の学校生活において示していきます。また、各部門ごとで学ぶ専門的な学習と学部を越えて共に学ぶ交流の学習を今後も検討し組み立てていきます。

### ○設問3<複数障害種学校としての価値の発信>

他の設問と比べ、設問3の肯定的割合が低い結果となりました。学校の情報発信という点では、今年度はHPの内容を少しずつ充実させ始めていますが、家庭へは学級便り等での発信が中心となっており、お子さんの情報に限られる現状があります。学部・部門間でも情報共有し、学校全体の情報を得られるような取組の工夫を検討していきます。また、他校との交流という点では、地域の事業所への体験活動も併せて、各学部・部門のねらいに合わせた取組を進め、当校のことを知り、子供たちのよさを理解してもらうきっかけとなるよう推進していきます。

### ○設問4 <個性及び障害特性に応じた教育>

視覚障害、聴覚障害、知的障害のそれぞれの教育の専門性を高め、個に応じた支援・教育活動つながるよう引き続き取り組みます。

### ○設問5 <長期的な視点からの系統立った指導>

将来の自立に必要なスキルの獲得や卒業後を見越した進路指導が評価をいただきました。

保護者自由記述より：「卒業後の社会生活を見据えて指導、アドバイスをいただき、とても参考になりました」「得意なこと苦手なことを見極めて、将来の生きやすい道を導いてくれる」などの声をいただきました。各学部・部門それぞれの段階に応じた指導を今後も継続します。

アンケートへのご協力ありがとうございました。

保護者の皆様からいただいたご意見・ご感想は職員全員で共有し、今後の指導に生かしてまいります。

今後とも新潟よつば学園の教育にご理解とご協力をいただきますようお願いいたします。